

論 說

道 路 諸 問 題

道路改良會
評議員

矢 野 亮 一



天二つを與へずといふ位で世の中に二つ善いことにはない、一利あれば一害之に伴ひ、一得あれば一失亦從ふて來るは數の免れざる處で、東に近ければ西に遠く、水に強ければ火には弱い、一舉兩得などといふ慾ばつた考へは抑も無理な註文かも知れぬ、吾々は永年此道路を如何せんなどと大聲疾呼して、道路改良の必要を高調して來たのであるが、偕て一部の改良は出來た、鋪裝道路は成程立派だ、見た處は此上なしであるが、矢張り人間の作つたものぢや、一長一短は免れない、餘り得手勝手だ、餘り我儘

ぢやと御叱りを受けるかも知れぬが、有體に云へば有難くもあり、有難くもなしといふ感なきを得ない。

有難い方の點は無論數へ切れないほど澤山ある。就中雨の降る際などは實に此上なしで、此でこそ大金をかけて鋪裝した甲斐があると思ふのであるが、偕今年のやうな炎天に逢うて早雲飛火燎長空、白日渾如墮甕中で、上からは赫々と照りつける、下からはチャク／＼と眩暈するやうな強烈なる火照が来る、まるで天火甕の中で蒸し焼きにされるやうな感じがする處によると、アスファルトが溶け出して靴や履物に粘りつくやうな具合で、徒歩者の苦痛は逆も自動車連の想像も及ばぬほどである、日中の外出は全く命懸けでなければ出来ぬ、焦熱地獄などと云ふものは斯んなものかと思はるゝほどである、或は鋪裝道路は自動車で飛ばすべきもので、テク／＼徒歩するのが間違ひぢやと叱られるかも知れぬが、如何に叱られても、市民の大々多數は徒歩せざるを得ないのである、日中に外出するなと云はれても此亦出来ない相談である、今日では鋪裝が出来たといふても、まだ全體から云へば僅かに六分か七分で、而かも切れ／＼である、其間の大部分は若干水分を含んで居る自然の黒土交りの道路であるから、幸に徒歩者も大に助かるのであるが、若し豫定の通り全市悉く鋪裝されて、市内には自然の黒土道路が皆無であるといふことゝ成つたら、或は今まで無かつたやうな新しい病人が續々輩出するのであるまいか、無論此は夏期だけのことではあるが、夫にしても保健上由々しき問題ではあるまいか。

濕氣と衛生の關係は無論吾々門外漢には能くも解らぬが、或る程度の濕氣は是非必要であるとい

ふことは吾々共の體驗上明白な事實である。鋪裝道路は此點に於てどんなものであらうか、單に衛生上の見地から云へば黒土の自然道路は恐くは理想的のものかも知れぬが二噸三噸といふヘビートラックのフルスピードで疾走する今日に於ては無論そんな呑氣なことを云ふて居る譯には行かぬ。小の蟲を殺して大の蟲を助けると云ふことは決して褒めた言葉ではないが事實或は止むを得ないかも知れぬ、無論一利一害で黒土道路の缺點も亦少くないのであるから、吾々は或程度まで我慢しなければならぬのは勿論で、所謂天二つを與へずだ、仕方がないけれども、此に一つ考ふべきことは人造の濕氣である、即ち撒水の勵行である。撒水は道路其物の保存上にも、清潔上にも必要であることは云ふ迄もないが、更に衛生上からも一層必要であると思ふのである、無論今日でも撒水はやつて居る、或部分には盛んにやつて居るが決して普遍的ではない、場末の方とか、餘り人通りのない處では、やつたり、やらなかつたり、やつてもほんの申譯位のものらしいといふことを聞て居る、若し夫が事實であるならば、そんな處を歩く人は實に災難である、一體そんな處まで急いで鋪裝する必要が有るであらうか、兎角御役所仕事は豫算はあるだけ、使ふべきもの貰ふたゞけ使はなければ損である、豫算を残すと、如何にも當局者の腕が無いやうに云はれるので止むを得ず、不急と知りつゝ豫算を使ふ爲めに仕事すると云ふやうな事情もないでもないが、吾々は決して當局が豫算を濫用して居るとは思はない、無論場末の方とか、人通りの少ない處は工事が仕易いとか、或は仕事の關係とか、種々の事情で急いでやる必要が有つてやつた事と信じて居るが、兎に角出來た以上は、如何に交通量が少くても一視同仁で十分に撒水もする、掃除も仕て欲しいのである、道樂息子が出來たと同じで、鋪裝した以上は費用の

掛ることは止むを得ない、交通量の多少と保健問題とは全く別である、先年獨逸で雨中に撒水して居るのを見て一驚を喫したのであるが、恐くは夫れほど八釜しく云はなければ撒水の勵行は出来ないものであらう、撒水だけで夏の舗装道路は救はれるや否やは分らぬが、兎に角撒水だけでも十分に勵行さして欲しいと思ふのである、實際人助けである。

二

暑氣の問題に付て、モーツ考へさせられたのは、例の堀り返へしである、今年の暑氣は無論四十年目とか五十年目とかいふのであるから格別ヒドイ譯であるが、其灼熱せる炎天下に於て全身眞黒に汗みどろに成つて道路工事をやつて居る人達を見ると實に同情と感激に堪へないのであるが、偕此等の人達の貴重なる汗と膏とが果して適當に使用されて居るであらうか、無駄にウエイストされては居ないであらうか、斯んな問題を出すのは外でもない、折角大金をかけて多大の貴重なる勞力を使つて出來たばかりの舗装を惜氣もなく後からく堀り返へしをやつて居るからである、無論算盤勘定から云へば、筈にも棒にも掛らぬほど不經濟な生産な馬鹿氣切つた話であるが、僕は夫れよりも、思想の惡化といふことをより多く恐れるのである、俺達が折角骨折つて汗みどろになつて、作り上げた、アノ立派な道路を、何故無造作に慘たらしく打ち毀すのであらうか、アノ無残なことをするならば、アノほど叮嚀に仕事をするのは無かつたのに、實に莫迦々々しい譯である、眞面目に仕事をする奴は阿房ぢや、どうせ打ち毀はされるのぢやから……若し萬に一でも斯んな考を起こす人間が有つた

ら何とするか、何と云ひ譯するか、府や市でやる仕事も、逓信省でやる仕事も、働てる人達の目からは皆同じく御役所の仕事である、御上の仕事である、統一があるとか、無いとかいふことは俺達の知る處ではないのである、餘りに人を馬鹿にして居る、俺達は無論雇はれて金の爲めに働てるのではあるが、而かも、獨り金ばかりではない、此でも多小仕事に興味を持つて、俺達の作つた道路を見て呉れ、鋪裝を見て呉れと云ひたいのである、そう無闇に叩き破はされては溜らない……と口にこそ出さないであらうが、心の中では皆そう思ふて居るであらう、勞働者ばかりではない、誰でも皆な斯んな堀り返しを見せつけられると、餘り氣持よく感じては居ないであらう、思想上の悪化は寧ろ斯んな處から起るのであるまいか、此等の思想上の問題は實際金錢以上の大問題であると思ふのである。

「人間は、兎にも角にも答ふべし、心の問は、何と答へん、で無論堀り返しをやるには相當に理由もあるであらう、云ひ譯の方法もあるであらう、けれ共四隣寂として萬籟なき眞夜中に、靜かに胸に手を當て、考一考せられたならば、理窟は理窟、釋明は釋明として、夫れ以外に心の問は、何と答へんといふ精神上の問題は残らないであらうか。

地下埋設物の多いことは解かつて居る、事務統一の云ふべくして、行ひ難きことも分かつて居る、同じ市長の下に有る上水、下水、電車等の間柄でさへも中々統一は困難であらう、モット進んで云へば道路局の内だけでも、恐くは眞の統一といふことはなかく、面倒であらう、大勢の手でやる仕事のことだから止むを得ない、そう局外者が思ふやうに簡單には行かないことも十分御察して居るのであるが、善いことは善い、悪いことは悪いと云はなければならぬ、堀り返しなどは無論どの點から見ても

決して善いことではないのであるから、當局者は十二分の注意を拂つて、豫算を無駄にウエイストせざるは勿論、金銭以上の金銭で買うことの出来ない大切な思想上の問題までも考慮の中に入れて仕事をするやうにして欲しいのである。昔は御飯粒一粒溢しても目が潰ぶれるとか云ふて訓戒されたものである。或はそこに落ちて居る紙屑一枚でも拜んで拾ふたとか、柄杓に一杯の水でも、使ひ残つたものは琵琶湖へ戻したとか云ふ陰徳を積まれた智識も有つたのであるから、餘り勿體ないことをしないやうにして欲しい、大きな仕事をするほど些細の點にまで注意して欲しい、餘りケチ臭い話のやうであるが精神的のことは頗るデリケートである。一念萬念で一毫の差が遂に千里の差となる場合も少くないのである。若し出来るならば萬止むを得ざる堀り返へしなどは深夜あまり人の目につかぬやうな時こつそりやつて欲しい位である。白晝、公々然と大びらにやつて貰ひ度くないのである。無論此れは出来ない相談であらうが、世道人心に影響する處を考へてそれ位な親切な心掛でやつて欲しいのである。

三

次は横町問題である。今まで道路改良と云へば直ぐ自動車を擔ぎ出して、自動車の爲めに道路を改良する、道路改良會までが自動車屋の提燈持ちでもして居るのでは無いかと思はるゝ程熱心に自動車を云々して居る連中のあるのは實に氣が知れぬのである。昔は平氏に非れば人に非ずと云つた時代もあつたが、今日では自動車に乗るもので無ければ、人に非ず、自動車の走る道にあらざれば道路に

あらず、とても思ふて居るのではあるまいか、無論自動車は道路改良論の導機となつたことは事實であるが、道路改良の必要は獨り自動車の爲めばかりでは無いのである、吾々は道路を住宅の一部と見て居るのである、少くも共同廊下の延長と見て居るのである、巴里の如きは道路の一部を食堂として取り扱つて居るのである、道路改良論は宜しく此點から出發しなければならぬと信するのである。

無論自動車の爲めには大に道路改良の必要がある、自動車が贅澤物であつたのは昔の話で、今日では乗合自動車も次第に發達し圓タクさへ出来るやうに成つて、實際に次第々々に民衆化し、實用化されて來たのであるから、其自動車の爲めにも此の道路を改良するといふのは、よく理窟に合つた話で、誰も異論を唱へるものは無い、無論皆な大賛成であるが、此に一ツ大に考へて欲しいことは、此東京に自動車の通らない狭い路が(假りに横町と云はう)面積から云へば僅か二割八歩ばかりであるが、延長から云へば五割三分といふ多數を占めて居るのである、而かも此等の横町は比較的住宅の密集せる處で、出入も頻繁、全部徒歩客と云ふて差支ないのである、此等の人は、少くも本通りまで、電車の停留場までは徒歩しなければならぬのである、現今の状態から云へば、此横町の部落だけは永久に長履や高足駄を用意して置かなければならぬといふ不孝な境遇に在るのである、道路改良會は、此横町問題をどうするつもりか、道路局は、此横町を見殺しにする積りか、當局は、此横町を閑却して居るのではあるまいか、如何に自動車が民衆化しても、此横町には没交渉である、そんなら、此横町を廢止することが出来るかといふに、無論出来ない、横町は梯子の横木と同じで、横木なしに梯子は出来ないと同様、横町なしに大通りは出来ない、といふことを考へたならば、此横町の改良、横町の簡易鋪裝といふやうなこ

とは大通りと切り離しの出来ない喫緊の大問題であると信ずるのである。如何に大通りだけ立派に舗装しても横町が汚なければ塵埃は皆横町から遠慮なしに飛んで来るのである。下駄や靴の裏に泥をつけて大通りまで運んで来るのであるから、本通りだけ立派に舗装しても横町を其儘にして置くのは頭隠くして尻隠くさずである。佛作つて魂入れずである。横町を改良しない限りは東京は何時までも泥の都塵埃の都といふ汚名を免れないのである。無論横町のことであるから、自動車も来ない、トラックも来ない、よし来てても極めて少数であるから、舗装するとしても安値な簡易なもので宜いのである。本通りほど大金を掛ける必要は無いのである。前述の如く延長こそ五割何歩であるが、而積は僅に二三割に過ぎないのであるから、其舗装費は決して多額には上らないであらう。而かも市民の大多数は之が爲め大に助かるのであるから、刷毛序でに、此横町問題も片付けて欲しいものである。

此まで書て来ると鳥渡財政問題に觸れて見たくなる。無論道路改良は一の立派な生産事業である。直接に生産はしなくても間接には大に生産を助けて居るのである。少くも貨物の運賃を軽減する効能のあることは十分明かである。夫だけ生産費を減少して居るのである。其點は汽車や電車と同じことであるから、何とかして之を汽車や電車のやうに特別會計として一年毎に收支勘定を立てて見ることは出来ないものであらうか。假りに營利會社として受負つたら、どんなものになるであらうか。詳しく云へば道路改良の効能書を一ト纏めにして之を數字に表はして見せることは出来ないものであらうか。財源は受益者負擔でもよし、附加税でもよしである。道路改良の爲め税金の高くなることは何人も覺悟の上であるが、其税金が、どんな具合に使用されるか、其効果がどれほどあつたかといふことが

一表の下に一目瞭然にすることが出来るならば借金政策即公債募集で之を促進するといふことも大に面白いと思ふのである今更通行税を取る譯にも行くまい、橋錢を徴收する譯にも行くまい、入市税を取り立てる譯にも行くまいと思うが、何等かの方法を以て之が特別會計を立てることが出来るならば頗る妙であると思ふのである。

都市計畫などと云ふと其言葉の新しいだけに殊に交通、衛生、保安、經濟、地域制などと有難い御題目がずらりと並べ立てられて居るので鳥渡難かしく感するのであるが、其實質内容の大部分は道路問題である、道路問題さへ確定すれば、あとは刀を迎へて自ら解くといふても差支ない位のものである。従つて都市計畫の財源は左に之を都市の道路改良の財源に充當し得らるゝものが多々有之と思ふのである。不幸にして今斯る調査の材料を持ち合せがないから誰が其筋のエキスパートに御願して見たいと思ふのである。

今日は大震災火災の三週年紀念日、東京全滅の聲と共に我も人も、口こそ出され、心の中では皆「今に見よ變禍爲福は此機に在り」と決心しないものは無かつたが、其決心は果して如何、帝都の復興事業果して豫期の通り進捗し居るや否や、就中尤も樞要なる道路計畫は如何、若し幸に各官廳や學校が今少し氣をきかして御膝繰りをして率先して三百萬市民に其範を示して呉れたならばなぞ考へつゝ實に感慨無慮！

行路難、難於山險於水、行路難不在水不在山、唯

(大正十四年九月一日朝稿を了りて)